郷土のとびら

季刊
2017年１月発行　第６号

「真田丸」「おんな城主直虎」と、戦国時代を舞台にした大河ドラマが続きます。命がけの戦いの中での主人公の生きざまに心打たれるからでしょう。戦国の世を戦ったのは有名な武将だけではありません。私たちの故郷にも多くの城があり、武将たちが戦っていました。軍記物に残された直方に一番近い城、高取城の攻防の歴史をみてみましょう。

当時の高取城をとりまく状況（永禄４年４月）

いまから４５０年ほど昔、筑前地域は周防の大内氏と豊後の大友氏の勢力がぶつかる場所でした。大友方の鷹取城主毛利鎮実は二千人余の大友軍と共に、大内方の武将、宗像氏貞の許斐城（宗像市東郷）を取り囲んでいました。しかし、許斐城を任されていた許斐氏鏡は城に籠り出てきません。しびれをきらした大友軍は、許斐城に総攻撃をかけますが、待ち構えていた許斐軍の反撃にあい、退却の途中で宗像軍の攻撃を受け、高取城に逃げ帰りました。大友軍は１ヶ月後、再び許斐城へ向かいましたが、やはり城を落とすことはできませんでした。

高取落城

毛利鎮実が許斐城を取り囲んでいる留守中、その隙をついて、大内方である畑城（八幡西区）の香月氏が高取城を襲撃しました。手薄だった城はひとたまりもなく落城し、逃げ延びた女子どもばかり４０余名が捕えられ、頓野で討たれました。後に香月氏はその場所に塚をつくり、霊を慰めました。いまでも「四十塚」という地名が残っています。

『直方歴史ものがたり』　舌間信夫/著　N２１９ノ
『直方市史』　直方市　NL219 ノ
『福岡県の城』　廣﨑敦夫/著　N521 ケ

直方あの頃

平成 12 年～平成 15 年

直方市立図書館が現在の場所に移転し、開館した 2001 年頃、直方市では、どんな出来事があったのでしょう。また、この年になにが流行したのでしょうか。

平成 12 年(2000 年)
　11 月　五日市が 500 回目達成
　この年、腰パン、厚底ブーツが流行
平成 13 年(2001 年)
　４月　直方谷尾美術館オープン
　この年、長さ 2m以上のロングマフラーが流行
平成 15 年(2003 年)
　10 月　直方東高校閉校
　この年、SMAP の「世界に一つだけの花」が流行

郷土の人々　農政家　菊池六朔

菊池六朔（きくちろくさく）は、文政２年（1819）、旧若宮町山口の代々続く農家に生まれました。六朔は幼いころから字を学び書を好みました。当時百姓が学問をすることには全く理解が得られず、叱責や折檻を受けながらも、寝る時間を惜しんで学びました。医師の武谷玄立や国学者の伊藤常足に学び、農学や農政学を修めました。後に黒丸村、乙野村、山口村の庄屋を務め、全国を歩いて稲の改良、普及に努め、土地に合った作物を勧めました。

六朔の事業として代表的なものは、大勢の百姓のために私財を投げ打って、宮若市沼口都市原の開作をやり遂げたことです。荒地に大きな溜池を作り、溝を掘り、数十町の新田にしました。家族総出の働きに、時の藩主黒田長溥公はたいそう感じ入り、二代の間の免税を許すとともに、自作の歌を授けました。貧民救済などで福岡藩から 21 回褒章を受けた他、佐賀藩や秋月藩で勧農勧業を行い、藩主直々の対面を許されました。明治 22 年、農業の改良と発展を図る目的で創立した大日本農会の委員を拝命しました。

六朔が農業の改良に励み、貧しい人々のために労苦を惜しまなかったのは、自分の若い時代の経験があったからでしょうか。六朔は後に家塾を開き、学問を志す貧しい若者に、惜しみない援助をしています。

『菊池六朔翁小伝』N289 ク
『鞍手郡郷土史』NL219 ク
『福岡県篤行録』N281 ケ

はじめの一歩　～郷土資料の紹介～

直方市立図書館にある郷土関係の本を紹介していきます。
郷土の歴史や文化に興味をもっていただくきっかけになればと思っています。

今回、“直方市を知る”の第四弾は、文学についてということで、林芙美子や野見山朱鳥に関する資料をご紹介します。

『四館協働企画展生誕 110 年林芙美子展』北九州市文学館／N910 ノ
『林芙美子とその周辺』井上隆晴／N910 ノ
『野見山朱鳥　花神コレクション〈俳句〉』野見山朱鳥／N911 ノ
『愁絶の火』野見山朱鳥／N911 ノ

直方市立図書館
直方市山部 301-1 ユメニティのおがた内
TEL　0949-25-2240　FAX　0949-23-3902
http://www.yumenity.jp/library/library.htm